

【年度末評価】 平成30年度 長野県赤穂高等学校(定時制課程)学校評価表1/2

学校運営計画					
学校教育目標	憲法及び教育基本法の精神に基づき、特に次の事項に留意して教育実践に当たる。 1. 生徒の自主性を高め、個性を伸ばし、社会性を養い、実践力のある社会人の育成に努める。 2. 職員は絶えず研修に努め、魅力ある学習指導を行うなかで、真摯な学習態度を育成する。 3. 体育及び芸術教育を通して、情操教育を尊重し、心身の調和的発達を期す。 4. 自然及び社会に関する科学的思考力を高め、総合的学力の涵養を図る。 5. 課程・学校の性格を明確にし、相互の協力を図るなかで、地域に根ざし、特色の発揮に努める。	基準(以上)	評価	評価は1, 2, 3, 4, 5 5 大変よい 4 よい 3 普通 2 あまりよくない 1 よくない 課題と改善策についても記入願います。	
		4.0	A		
3.0	B				
2.0	C				
重点目標 (中・長期的目標)	様々な学習歴や生育歴をもつ生徒たちに、勤労学生としての自覚と共に、常に高い理想と明るい希望を持って自己の向上を図ろうとする意志と態度を養い、自他の生命と人権を尊重し、互いに協力しながら堅実な校風を樹立し、社会に貢献する有為な人材を育成する。	1.0	D		
今年度目標	具体的目標	評価	課題と具体的な改善策		
① 生徒の学習意欲を喚起し、基礎・基本の定着、進路目標の実現を図る。	生徒の実態に即した学習指導を推進し、わかる授業・わからせる授業を展開するため、授業改善を積極的に行う。	A	少人数であっても学力差があるので、すべての教科でチームティーチングの形がとれないかが検討課題である。		
	積極的な学習態度や生活習慣を涵養し、基礎学力の充実に努め、確かな学力を身につけさせる。	B	高2までに中学程度の基礎学力の定着を図るため基礎講座の内容をさらに充実させていく必要がある。生活の質の向上や将来のために役に立てる学びを提供し続けていく必要がある。		
	始業前に選択授業などを行い上級学校進学希望者に対応するような体制を整える。	A	高2までの進路指導(進学・就職指導)が重要でありこれからの課題である。		
② 自由と責任を重んじ、自立的な生活習慣を確立し、社会の有為な形成者としての資質を養う。	生徒に基本的な生活習慣を身につけさせる。	B	さらに家庭と連携を図りながら、基本的な生活習慣の確立を図ることが課題である。身につけている生徒といない生徒との差がある。家庭も含めた対応が必要であると感ずる。		
	社会に出て通用するマナー指導の徹底を図る。	B	集会、授業態度、男女交際、スマホ等、さらに効果的に指導していくことが課題である。マナーについて職場ではできるが学校ではできない生徒がいる。学校でマナーを守るよう継続して指導していく必要がある。指導はしているが、徹底されていない。引き続き声かけが必要である。		
③ 互いの人権を尊重し、旺盛な責任感を育てる。また、いじめや体罰のない安全・安心な「風通しのよい」学校づくりを推進する。	人権を尊重し、責任を持った分別ある行動ができる生活指導を進める。	B	担任と生徒指導係が連携し、生徒指導事案ごと生徒の支援のために効果的な指導案を立て取り組んだ。		
	健康と安全に注意を払い、学業と勤労が両立できる心身共に健全な身体をつくる。	B	学業よりも仕事優先という生徒が何人かいたが、全体的には学校と職場の両立が図られている。体調を崩すと学校は休むが、仕事は休まない生徒への対応が必要である。(事業所との連絡、連携、理解) 学業と勤労の両立ができている生徒もいるが多くの生徒にとってはなかなか難しいことで根気強く励ましていく必要がある。		
	生徒との相談体制をより充実させ、小さな事も見逃さない指導を目指す。	B	養護教諭のきめ細やかな対応で相談体制が構築されており、小さなことでも情報共有ができている。限られた生徒への対応が主になっているが、広く声掛けをして相談しやすい環境をつくる。少人数なので、生徒の様子はよくわかり、職員間で情報を共有できている。		
	いじめの未然防止、早期発見、早期対応のため、生徒が示す変化を見逃さないよう心がけ、いじめを積極的に認知するとともに、いじめの実態把握につとめる。	A	学校評価・授業評価、アセス(学校適応感尺度)を毎学期実施し、結果を考察するなどいじめの未然防止を図ることができた。		
④ 家庭・職場・地域との連携をより密なものにする。	家庭・職場との連携を密にし、生徒一人一人の理解を深め、4年間の学業にいそませる。	B	生徒の職場での様子、勤務状況を把握する意味で、職場訪問を計画実施することを検討していく。		
	家庭・地域との連携を強化するため、WEBページによる情報発信や定時制振興会との交流を通して、開かれた学校作りを目指す。	A	積極的にWEBページに活動等を掲載するなど、例年以上に情報発信を充実させることができた。		
領域	評価項目	評価の観点		評価	課題と具体的な改善策
教育課程	教育課程を検討する。	学習指導要領の趣旨を反映させ、本校教育目標の実現に即した教育課程となるよう検討する。		A	上級学校への進路希望に合わせた教育課程の見直しを図った。
教科指導	授業時数を確保する。	授業交換等によって自習時間を作らない。		A	学習係が3週間ごと授業時間割を作成し、授業交換を行なうなど自習時間をつくらないよう徹底されている。
	授業内容を充実させる。	基礎的・基本的内容を重視した指導を行い、基礎学力の確実な習得・基礎技術の習熟を図る。		A	教科書だけでなく補助教材、プリント等を使いながらわかりやすい授業を心がけ実践できた。
	授業態度の改善を図る。	授業に不必要な物を片付けさせ、学習環境を整えて授業に臨ませる。授業の中に生徒指導の機能を生かす。		C	職員の生徒指導、学習指導に対する意識統一が図られ、今年度は大きな改善が図られた。まだ一部の生徒が授業中にスマホを使用してしまうが、根気よく個別指導、集団指導を繰り返して行く。
	授業の改善・工夫に努める。	生徒の実態にあった授業法を確立するため、研究授業等職員研修を実施する。		B	10月には授業見学週間を実施し教員同士が授業を見学し合うなど授業改善や工夫を図ることができた。
生徒会活動	生徒会活動の活性化を図り、自主的・自立的行動ができるようにする。	生徒会役員にリーダーとしての自覚と責任を持たせ、日常の学校生活や学校行事に意欲的に取り組ませ、生徒会活動を充実させる。		B	生徒会活動に対する生徒の意識が低いので、主体的に自治が図られるような助言が必要である。自主的な行動が困難な生徒が多いため、教師からの声掛けや、やり方を示すなどの指導が必要である。
	部活動を奨励し、生徒に自信を持たせるとともに、学校の活性化を図る。	日常の部活動の成果を学校生活に生かせるよう、全職員が連携して取り組む。		B	運動部活動は盛んに行われている。また、今年度は平和ゼミナールの活動が充実しており、全国各地で研究発表をするなど、顧問の先生方の指導により、生徒が飛躍的な成長を遂げたことは特筆に値する。
生活指導	望ましい基本的な生活習慣を育成をする。	服装・態度・時間厳守・喫煙・薬物乱用防止等に関する生徒指導上の問題点に対して学校保健委員会等と連携し学習を深め一層の徹底を図る。		A	薬物乱用防止講座では、薬物依存経験者の体験談を直接お聞きすることができ効果的であった。
	問題行動を起こした生徒に対して、丁寧に継続的な指導を行う。	生活指導担当、学年を中心に生徒相談委員会と連携し、組織的・継続的に指導を行う。家庭や地域との連携を密にし、協力して指導にあたる。		A	生徒指導事案が少なかったが、生徒との対話、家庭との連携を密に効果的な指導を行うことができた。

【年度末評価】 平成30年度 長野県赤穂高等学校(定時制課程)学校評価表2/2

領域	評価項目	評価の観点	評価	課題と具体的な改善策
安全指導	四輪、原付の安全で正しい運転ができるよう指導する。	年1回の実技講習を行う。	A	免許取得者全員が自動車学校へ行き実技講習を行うなど、交通安全指導が効果的に行われた。
	交通社会の一員としての自覚を持たせる。	年2回の交通安全指導を行う。	A	3年生以上になると自動車通学者が多くなることから、毎年春と秋に実施する方向で検討していきたい。
		登下校指導を全員の職員で行う。	B	交通指導を含む生徒指導中心の登下校指導(立ち番)を増やしていきたい。
進路指導	社会や経済状況を的確に分析・把握し、社会の要請に応えるべく適切な進路指導を行う。	充実した進路指導ができるように、指導体制の整備に努める。	B	就職試験前には多くの職員が関わり面接指導を行うことができた。
		各種資料を提供し、進路目標を適切に決定できるように指導する。	A	4年生を中心に適切な進路指導ができた。1年生からSSTやアルバイトセミナー、労働相談などの就労支援の取組をしていくことを検討している。
	生徒の能力や特性を生かした進路指導の充実に努め、進路選択や進路決定を支援するために、正しい勤労観や職業観・学業観を育成する。	担任を中心に学年に応じた就業指導を実施する。	B	企業見学、就業体験など積極的に実施することが来年度の課題である。難しい人間関係や過酷な労働環境が学校生活の妨げになっていることがあるので注意を払っていく。
		ハローワークとの連携や定時制振興会の協力を得ながら積極的に求人開拓をする。	B	担任の先生が精力的にハローワークと密に連絡を取り就職活動をサポートした。ハローワークや定時制振興会とさらに連携して取り組みたい。
	上級学校進学希望者に対応できる教育課程を設定し、進路指導を行う。校内進路ガイダンス(講演会など)を実施する。	B	上級学校の進学相談会への参加を呼びかけ参加することができた。	
キャリア教育	勤労学生として生活を送る中で、将来設計と就業への移行を実現させ、社会的・職業的に自立した人間を育成する	パート・アルバイト等への就業指導をSSTも含めて、継続的に行う。	B	アルバイト就業率が上がるよう就業指導を行っていく。授業よりもアルバイトを優先してしまう傾向がある生徒がいるので引き続き助言していく必要がある。
		人生発見講座、生活体験発表会、講演会等を通してキャリア教育の推進を図る。	A	それぞれの学校行事がキャリア教育と結びついており継続した取組が課題である。
人権教育	教育活動の全分野で、人権教育の視点で生徒一人一人を大切に、生徒の自尊感情を育て、自己実現に向けて自らの進路を切り拓く力を育成する。	講演会の実施、ネットモラルについての学習、視聴覚教材などの活用により理解を深める。	A	スマホ安全教室は毎年実施していく必要がある。
		校外研修へ積極的に参加する。	B	人生発見講座、人権平和学習、平和ゼミナール等のほかにも積極的に研修を行った。
健康指導	心身の健康を保持増進するために、健康診断・健康相談・保健指導を計画的に行うとともに、安全で衛生的な学校環境作りに努める。	疾病の早期発見、早期治療を目指して実施する各種検診、健康相談を進んで受ける姿勢を養う。	B	養護教諭が生徒・職員の健康づくりに気を配り、適切な指導が行われている。自分の健康を意識することが難しい生徒が多いため、保護者も含め日常的に声掛けを行う必要がある。
		生徒相談委員会と連携し、必要に応じて「心の相談」や「性の相談」を実施する。	A	養護教諭が生徒相談の窓口としての機能を果たし、性の相談等を受け解決に導いた事例があった。相談しにくい課題であるため、普段から情報の収集・共有・連携を密に行う必要がある。
	生徒が健康問題を生涯の課題として考えられるようにする。	薬物や性についての講演会を実施する。	A	人生発見講座、薬物乱用防止講座は生徒が満足できる内容であった。さらに充実させていきたい。
生徒相談	誰もが相談できる雰囲気醸成する。	日常的な対話を重視し、タイムリーに相談できるようにする。	A	全職員が温かく生徒を迎えるなど、入りやすく、話しやすい職員室になるよう心掛けていく。
	悩みを持つ生徒からの相談体制を確立する。	口頭での申し出がうまくできない生徒には、声がけをするなどして、生徒相談を深める。	A	生徒が自らすすんで相談するというよりは、職員の方から声がけて悩みを聞き出している。声を上げられない生徒には、挨拶など簡単な声がけを繰り返し行い、相談しやすい環境をつくる。
		必要に応じて「生徒相談だより」を刊行する。	C	生徒、家庭の学校に対する理解等のため、「〇〇だより」を増やしていきたい。
家庭・地域との連携	学校開放などで積極的に本校をPRするとともに、PTA・同窓会・定時制振興会・地域との交流に努め、開かれた学校作りを目指す。	生活体験発表大会(校内、南信、県、全国)を通して、他校生徒や地域との交流を推進する。	A	南信生活体験発表大会に全校生徒が参加することができた。
		PTA・学校職員によるレクレーションなど交流を推進する。	A	PTS交流会などでは親子バレーや焼き肉会など家庭と学校の交流が図られた。
		三者協議会、定時制振興会総会を実施する。	A	毎年1回開催の振興会総会をさらに充実させていきたい。
いじめ防止	いじめを未然に防止する。	人権教育、情報モラル教育、教育相談週間、教員の校内研修等をバランスよく計画、実施する。	A	アセス(学校適応感尺度)職員研修などさらに充実させていきたい。
	いじめを早期に発見する。	定期的なアンケート調査や面談の実施等により、生徒が示す変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保ち、いじめを積極的に認知する。	A	些細な人間関係のトラブルは2~3件あったが、いじめと認知した件数は0であった。
	いじめに早期に対応する。	いじめと疑われるものすべてに組織的に対応し、当該生徒や保護者の痛み・苦しみと向き合う。	B	いじめと認知しない事案(些細な人間関係のトラブル)でも、丁寧に対応できた。
	ネット上でのいじめに対応する。	インターネットの安全な利用について生徒が自ら考え自ら行動するためのスマホ・ケータイ安全教室を実施する。	A	スマホ安全教室だけで終わらせることなく常にネット、SNSには目を光らせている必要がある。